



「挑戦・跳躍の年」

理事長 小林 寿夫



明けましておめでとうございます。本年も、健やかに新年を迎えられたことを皆さんとともに喜びたいと思います。

新型コロナウイルス感染症との闘いは、まる3年を迎えました。2023年の年頭でもまだまだ感染拡大が続き、変異もおさまる気配はありません。昨年との違いは世界各地でワクチン接種が行われ、死亡率は減少していて「インフルエンザと変わらない」という意見もあります。しかし、何回も流行を繰り返すことや基礎疾患を持つ高齢者の死亡率が上昇しているなど、感染力や病原性の強さには十分な注意が必要と思われます。また、国民生活を直撃するインフレなどもあり、我々を取り巻く環境は厳しさを増すばかりです。

本年の干支は卯（うさぎ）です。穏やかで温厚な性質であることから「家内安全」、その跳躍する姿から「飛躍」、「向上」を象徴するものとして親しまれています。新しいことに挑戦するのに最適な年とも言われています。なごみ苑でも隣接する新しい施設としてサービス付き高齢者住宅「ルピナス 滑川」を増改築して今年の8月にオープンする予定です。これまでの努力が実を結び、一気に飛躍、向上する施設になることを目標に頑張りたいと思います。

なごみ苑では、昨年の6月と12月にクラスター（集団感染）が発生して関係者の皆様には多大な御迷惑と御心配をお掛けしました。この場を借りてお詫びを申し上げ、これらの経験を生かして施設内の今後の感染対策に役立てていきたいと気を引き締めております。今年こそ新型コロナウイルス感染症と共生できている年となるよう願うばかりです。なごみ苑は今まで以上に地元へ信頼され愛されるように職員一丸となって精進致す所存であります。

全国的には新型コロナとインフルエンザが同時に流行しております。関係者の皆様方にはくれぐれも健康にご留意され、明るく楽しくそして幸多き一年になりますことを祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

「2023年 年頭所感」

施設長 佐々木 正



明けましておめでとうございます。昨年もコロナに翻弄された1年でした。6月末、クラスター発生、病院搬送6名、初めて経験する施設内隔離（ゾーニング）。不安と緊張の中、全職員が協力し、一丸となって緊急事態を乗り越えました。そして12月初め、2回目のクラスター発生。入所者のほとんどがワクチン接種をされていて、病院搬送1名、軽症の方がほとんどでした。亡くなられた方が数名いますが、基礎疾患が重症な状態で入所されている方で、コロナ感染の影響は否定的？でした。

6月末（第7波）と12月初め（第8波）の大きな違いは感染のスピードでした。第8波では、特に職員の感染者が続出、勤務体制に大きな影響が出ました。ゾーニングや感染防止対策に問題があるのでは？しかし、感染・伝播力の強さは、どうやら変異株の影響のようです。ADLの低下、認知症の進行はありますが、重症化された方や後遺症で苦しまれる方はいませんでした。そして、12月末、御用納め直前にゾーニング解除、なごみ苑全館開放！年末年始に間に合いましたが疲れましたね！なのに、休みは最短5日間。みなさん！もう4年になります。やりきれない閉塞感が鬱積、ストレス充満、一触即発の危機。緩和策、解消法など対策をみんなで考え、やりましょう！

第8波の感染者の実数は把握できませんが、60歳以上の高齢者の死亡が過去最高と報じられています。第8波はまだ収束していませんが、新型コロナウイルス感染症は現在の「2類相当」からインフルエンザと同じ「5類」への変更が議論されています。医療機関や高齢者施設等の現場での対応はどうするのでしょうか？まだ闘いは続きそうです。常に感染対策を講じながら、波を避け、波を乗り越えて行きましょう！報われる日が必ず来ます。そう信じて笑顔を忘れず！

今夏オープンする、カラフルなルピナスの花が私たちの心を和ませてくれるでしょう！今年もよろしくお祈りします。